

ピーマンの夏期育苗における育苗ポットの大きさと苗の生育

鹿島地帯特産指導所

キーワード：ピーマン、イクビヨウ、イクビヨウポット、イクビヨウポットコガタカ、イクビヨウノショウリョクカ、ナエノセイイク

1. 技術の要旨

夏期におけるピーマンの育苗は、育苗ポットが大きいほど苗の生育が良好となる。また、育苗作業の省力化を目的とした小型育苗ポットによる育苗は、苗の生育から見て鉢上げ後20日程度の育苗期間（育苗日数35日程度）が1つの目安である。

2. 成果の内容

- 1) 播種は6月17日に「ニュー土佐ひかり」を播種箱に行い、鉢上げは7月2日（本葉展開時）に5cm, 6cm, 7.5cm, 9cm, 10.5cm（慣行）、12cmの各育苗ポットに行った。用土はスーパーミックスA（サカタ）を使用し、鉢上げ後の施肥は週に1回OKF-1（15-8-17）500倍液をN成分100mg/用土1リットル施用した。灌水は用土の乾きに応じ、随時行った。
- 2) 育苗ポットの大きさによる苗の生育差は、鉢上げ10日には認められ、鉢上げ20日以降急激に拡大した。
- 3) 鉢上げ後35日の苗の生育は10.5cmポットを100%とした場合、総合的に見て5cmポットは約45%、6cmポットは約50%、7.5cmポットは約70%、9cmポットは約85%、12cmポットは約105%であった。
- 4) 7.5cm以上のポットで育苗した苗の葉は、6cm以下のポットで育苗した苗の葉に比べやや縦長の傾向が見られた。
- 5) 夏期のピーマン育苗は育苗ポットが大きいほど苗の生育は良好であるが、育苗ポットの大きさによる生育差の拡大状況から、7.5cm以下の小型ポットによる育苗期間は、鉢上げ後20日（育苗日数35日）が1つの目安となる。

3. 情報活用上の留意点

苗の生育は、育苗時の気象条件、使用用土、施肥及び灌水管理等によりやや変化する。

4. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ピーマン栽培における省力的育苗及び利用技術の確立・平成10年～12年

5. 具体的データ

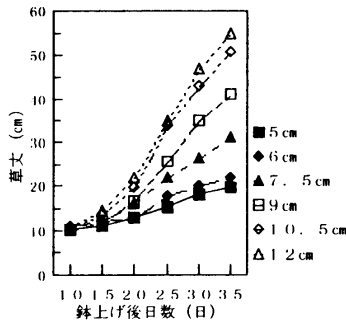


図1 草丈の伸長

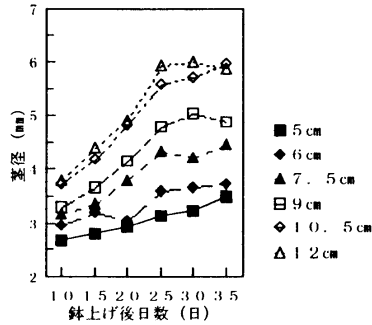


図2 茎径1)の増加
1) 茎径は子葉下を測定

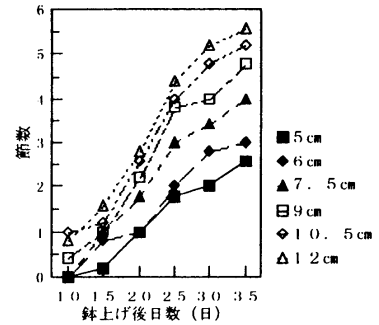


図3 節数の増加

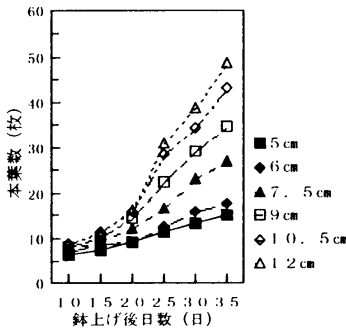


図4 本葉数の増加1

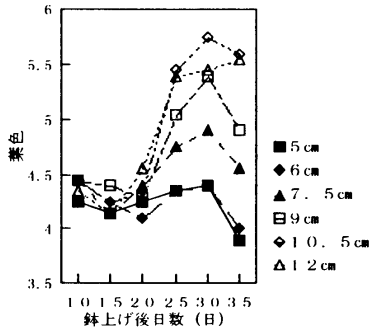


図5 上位本葉の葉色変化2)

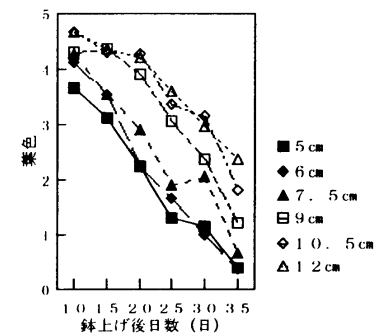


図6 下位本葉の葉色変化2)

2) 上位葉2枚, 下位葉2枚を標準葉色板(富士フィルム)で測定

表1 最大葉の大きさ

	鉢上げ10日後			鉢上げ20日後			鉢上げ30日後		
	たて	よこ	葉径比 ¹⁾	たて	よこ	葉径比 ¹⁾	たて	よこ	葉径比 ¹⁾
5 cm	6.5	3.6	1.8	6.7	3.6	1.9	7.1	3.5	2.0
6 cm	7.1	4.0	1.7	7.4	3.9	1.9	8.2	4.2	2.0
7.5 cm	8.5	4.4	1.9	9.6	4.7	2.0	10.8	4.8	2.2
9 cm	8.6	4.3	2.0	12.2	5.4	2.2	13.5	6.0	2.3
10.5 cm	10.1	5.0	2.0	14.6	6.3	2.3	16.5	6.9	2.4
12 cm	10.8	5.4	2.0	15.5	7.0	2.2	16.8	7.2	2.3

3) 葉径比は、たて/よこ

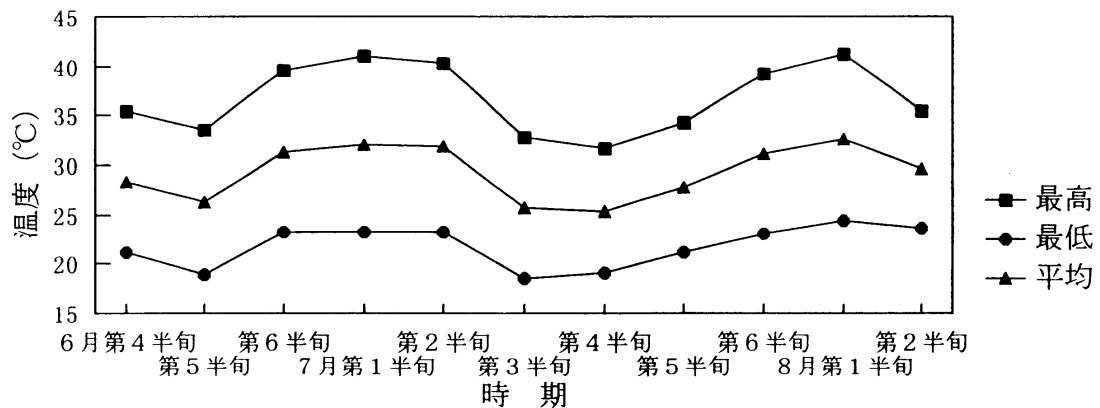


図7 育苗時期のハウス内温度推移